

講話「いろいろの子ども」 1

倉 橋 惣 三

氣の弱い子

(一)

此の子は氣が弱くて困る、意氣地無しで困る云ふやうなお話を屢々伺ひます。其氣の弱い子供云ふのはさう云ふ意味であらうかを考へて見ますと、其中に幾つも種類があるやうであります。

先づ第一には色々な物に對して氣の弱いのであります。之を或は物怖じする子供と申しても宜いかと思ひます。總て子供は新しい物に對して非常な好奇心と興味を以て居るものであります。今までしたことの無い經驗に對してぶつかつて行く云ふことが、子供の一般として好む所であります。之を私共の言葉では、子供は絶へず自分の心に

抵抗を樂しまふとして居るさういふ言葉で説明して居りますが、或る種類の氣の弱い子供云ふのは、此點に於て缺けて居る所があるのであります。別段そんなにむづかしい事云ふのではなく、なんでも今まで經驗したことの無い新しい事でありますと、直ぐにそれが其子の心持に一種の壓迫を與へて來るのであります。例へば新しく幼稚園に入つた云々します。其幼稚園は自分も豫め入りたいと樂んで居つた學校であり、又心の中では其幼稚園を大層好いて居るのでありますけれども、唯々今まで行き付けてない新しい所だ云ふ事で、大層氣に掛かるのであります。又何か新しい問題が起つて來ますと、其問題は自分に取つて少しもむづかしくないにしても、俗な言葉で申しますならば、新しい爲に度膽を抜かれる云ふやうな態度になるの

であります。是は普通の子供が總て新しい抵抗を樂しむに云ふこゝに對しての反對の性格なのであります。さうして斯う云ふ風な事になるか云ふこゝは、其子供の自我、即ち自分云ふ性格が弱いのである云ふこゝに期するのであります。元氣の好い子供は絶へず新しいものを求めて、其處に自分の力を試みて行かふ、隨て突張つて行かふ、押退けて行かふ、押切つて行かふ云ふやうな氣持が満ちてくるのであります。今言つたやうな子は其點に於て聊か缺けるのであります。必しも普通の臆病云ふのは違ひ、お化が怖いとか、泥棒が怖いとか云ふやうな、總ての子供に有り勝ちの臆病とは違ふのであります。要するに新しい云ふこゝに對しての臆病であります。

次に、物に對してさう云ふ態度を執るのでなくして、人に對して氣遣れのする子供があります。之を人怖じする子供と申しても宜いかと思ひます。元來子供は總て人に對して無邪氣に、平氣に接して行けるのが當り前であります。或は大人の方でむづかしい顔をして居りましても、子供の極めて無邪氣な心持からずん／＼構はず親んで行く云ふ

こゝが普通なのであります。こゝろが其氣の弱い子供になります。總ての子供に親しくなるのに大分時がかかるのであります。さうも遠慮深く、思ひ切つて自分を其人の側に近付けて行く云ふこゝが出来惡いのであります。是も必しも其人が自分に對して恐しい人であるか、或は惡意を持つて居る人であるか云ふやうなことを考へて居るのではありませぬ。其人は自分に對して親しい態度をこつて呉れる、いゝおぢさんであると思つて居りましても、さうも何さなく近付いて行き惡くいものが自分の心の中にあるのであります。是は私達説明によります。一種の本能に基くものであることも考へられる。即ち總ての生物は人間が人間同志暮して居りますやうな平和な心易い生活をして居るのではない。互に弱肉強食、生存競争の劇しい中に居るのであります。或る意味に於ては自分以外の者は皆な自分を脅かして來る所の敵である。斯う云ふ風なこゝが生物界の事實であります。勿論同じ種族の者は互に敵になつて居るものではありません。それと雖も少しでも生存が危ぶなくなりますならば、直ぐに互に噛み合

ふこ云ふやうな風になる。其生物時代の生活状態は總ての相手に對して自分を護らなければならぬ云ふ本能を生物に與へてゐるのであります。是は必しも何か酷い目に遭ひまして、其結果として畏れて逃げる云ふやうな意味ではなく、初からあらゆる者に對して自己を護る、自己を防ぐ、

硬い言葉で申しまするならば、自己防禦の自然の心持が出来るのであります。是が人類にも本能的に存して居りまして、それが或る子供に特に強く出て來るのであります。但し是は學説でありまして、他の説も立て得られる譯でありませうが、兎に角くさう云ふ事實は子供の性格の中に時々出て來るのであります。此場合に於ては必しも其子供の性格が弱いとか、或は自我が弱いとか云ふのみではありませぬ。寧ろ其自然の本能が適當に訓練されて居ない爲めである云ふやうなこゝにもなるのであります。例へば田舎の山の中に人に接するこゝの少ない子供にはさう云ふ風な事が多いのであります。私共が極く邊鄙な土地に參りまして、子供なごに遭ひますと、こちらは極く親しく近付いて行かふこじまして、さうもジロ／＼と恐しさうにこ

ちらを見る云ふやうな事が屢々ある。是は其子供の自我が弱い云ふよりは、平生餘り色々な人に接しませぬ爲に、此相手を避ける、相手に對して自己を護る云ふ本能的なものが訓練されてゐないのであります。他の言葉で言へば、開けない、さばけない心持であるを申しても宜いのでせう。

以上、物に對して物怖じをする子供、人に對して人怖じをする子供、是は只今申しましたやうに、一方は自我の弱さであり、一方は本能の訓練されない爲めである云ふこゝに於て、多少其性質を異に致して居りますが、要するに今日の前にある物に對して現存的に弱いのであります。之に對して少し趣きの違つたものがある。即ち今まで考へて來ましたものを普通の意氣地無しと申しますならば、是から考へて見やうとしますのは苦勞性云ふやうな言葉が合ふかと思ふのであります。

此苦勞性云ふ言葉はさうらか申しまするに、年を取つた人に多くありまして、年を取らない子供には極めて不似合のやうでありますが、併し時にさう云ふ性質の子供が

あります。其苦勞性云ふのは之を又二つに分けられるかと思ふのでありますが、第一は將來に對して非常に心配するのであります、外の言葉で申しますれば、結果に付て、越し苦勞をするのであります、自分の致しますこゝに就て、普通の子供でありますならば、結果は餘り考へない。或は其結果は總て行く行くものである云ふやうな、樂天的なのが普通であります、此種類の子供であります、事毎に結果を悪い方に考へて見て、而も其悪い結果が次へ次へ悪い結果を生んで行くやうな苦勞を心に持つのであります。それと反對なのが第二種でありまして、此場合に於ては將來の結果に就て越し苦勞をするのではなく、自分のした過去の事に就て、所謂愚痴を持ち續けるのであります。自分で今更さうするこゝも出来ないのだ云ふこゝも知らないではないけれども、ああ云ふ事をしてつた、あゝ云ふこゝはしなければ宜つた云ふやうに、過去が絶えず自分の心の中にくつつき廻つて、大人の言葉で申しまするならば、極めて愚痴っぽい、未練な心持ちの持ち主であります。其結果として矢張大膽に壯快に、元氣に生活して

行く云ふこゝが妨げられます。此苦勞性及過去に於ての愚痴性云ふやうなものは、遺憾ながら精神の稍々衰弱して居る状態でありまして、子供に對して甚だ不適當な言葉かも知れませぬが、大人で申しますならば、一種の神經衰弱の状態であります。しかも此神經衰弱の状態が子供に於きましては、必しも病的な意味ではなくして、單に弱い性格から生ずる所の習慣である云ふやうなこゝが屢々起ります。本當に病的な場合に於きましては、是は極めて心配すべき特殊の子供になりまして、今回私の取扱ふこゝにします問題よりは少し進み過ぎて來るのであります、唯々一種の癖としてさう云ふ事が性格として養はれる云ふ位のこゝは普通の子供に案外多いものであります。そこで斯う云ふ風な氣の弱い子供はごちらか申しまするこゝ、おきなしい子供に見える。亂暴でない。殊に無茶苦茶なこゝなごを決して致しませぬ。控目である。其爲に或る種類の大人から見まするご大變に賞められたり、氣に入られたりするこゝが多いのであります。兄弟が幾人かありまして、外の兄弟は極めて不遠慮に亂暴に振舞ふ中に氣の弱い子供

が居りまするに、如何にもしみやかに上品であるに云ふやうな事で、お年寄の方なきに氣に入つたりするにこそあります。併しながら斯ふ云ふ弱い性格に云ふものは、それがさう云ふ原因であるにしまして、其説明がさう試みられるにしまして、今日の此盛んなる現實の生活に立つて行きまする上には極めて不都合な、極めて損な性質であります。又單に所謂社會的に自分を成功さして行く上に損である許りでなく、其弱い性格が總てのものに向つて眞實に大膽に自己をぶつけて行くに云ふやうな、本當の生活を経験させないやうになるのであります。そこで私共は色々のお子さんの中でも、此氣の弱い子供に云ふものに對しては、一面極めていぢらしく思ひまするに共に、斯んな事では困る。さうかしてもう少し張りのある、突き込み力のある、自己をぎんぐ押し出して行く性格にならなければならぬに常に思ふのであります。

二二

所でさう云ふ子供に對して如何なる教育的の態度を執るべきか云ふことは次に起る實際問題であります、之に

對して私は二つの事を考へられると思ふ。一つはさう云ふ氣の弱い子供は實に困つた事でありませぬけれども、兎に角く先天的に、或は後天的に總てさうなつて居るのでありますから、今更之を急に直すに云ふことは相當に困難であります。單に困難である許りでなく、急激に強く仕様にする強烈なる取扱ひが更に一層に其子供の心を萎縮させて行くに云ふやうなこともないに限りぬのであります。例へばさう云ふ氣の弱い子供を持つて居る親や先生が自分是非常にしっかりと居る氣の強い方であつたりしまするに、如何にも我が子のして居ることが事毎にじれつたくてたまらぬに云ふ風になる。そこでそんな事でさうする、もつこしつかりしろに云ふ風に事毎にきびしく責める。勿論教育し様云ふ慈悲を持つてして居るのであります、唯之を責め、非難して居るのではない事は勿論でありますけれども、其弱い子供は當り前の生活に對してさへも抵抗を感じ過ぎて居るのでありますから、周圍の者がさう云ふ態度に出て來まするに、常に其抵抗に堪へ難いやうなことになる、殊に大人の方から申しまするに、他人ならば兎に角お

前の爲に眞心を籠めて居る、私のする事ぢやないかミ申しますすけれど、關係の密ならば密なる程其壓迫を感じる事が強いミ云ふこゝは察してやらなければならぬのであります。さう云ふこゝが極端な所まで行きますミ、其教育効果が現はれないのみならず、さうも其人ミ其子ミの間にまで一種の抵抗が挟まりまして、却つて面白くないこゝが起らないミも限らぬのであります。人相應の教育をするこゝが普通の原理であるミすれば、其子相當の取扱から、徐々に、靜々ミ努めて行かなければならぬこゝが第一に心得へなければならぬのであります。

併しながら是だけで其教育が出来るものではありませぬ。前にも申しました如く、氣の弱い子は要するに外に自分を本當にぶつつけて、自己を自ら試みて行くミ云ふやうなさう云ふ機會が少なかつたのであります。心理學的に申しますミならば、意思の鍊練が與へられる機會がなかつた爲に、其結果ミして自ら己れを信じ、自から己れを頼むミ云ふ自身の力が養はれずに来たのであります。故に子供を本當に強い者にして行く爲めには、自ら自分の力を持つ

て事に當らせる小さい抵抗を重ねて、段々に自己に對する自信力を加へて行くミ云ふやうな所に總ての計劃を考へなければなりません。斯う云ふ弱い子供は多くは家庭に於て甘まやかされ過ぎた、可愛がられ過ぎた、私の能く使ひます言葉では大勢の人からホイ／＼ミ育てられて居るホイ／＼子ミ云ふのに多いのであります。そらあの子がさうした、そらあの子に何をやらなければならぬミ云ふやうに、一々傍から甘まやかされ過ぎた子供に多いのであります。故に口で酷しくし過ぎるこゝは、前申しました如く必ずしも效目が多くないミ思ひますが、生活の事實に於ては、一

生活の實際に於ては、其子相當な、出来るだけの事を自らさせて行くミ云ふこゝは是非したのであります。氣の弱い子供が適當な事をしまして、案外此弱い自分にもやれば出来るものである。此弱い自分も人に向つてぐんぐん親しんで行けるものであるミ云ふやうな自信が何處かにつきました時の其子供の喜びミ云ふものは非常なものであります。殊に相當の年齢に達しますミ、氣の弱い事を自分も子供心に困つて居る場合があります。その際、實際の生活に

於て少しでも自ら自分の力を試し得たならば、非常な快感が自分に起るのであります。即ち、此快感、此小さい子供の誇り、是等を相當に蓄積して行く子供の性格の強さが養はれると思ふのであります。而して斯う云ふ風な性格が段々養はれて行きますれば、常に現在を本位とした心持が、一ぱいになつて、過ぎ去つた過去に捕はれたり、まだ出来ない將來に超越し苦勞をするに云ふやうなくだらない事はなくなり、もつと自らを立て、ゆく力も此處に湧いて来ると思ふのであります。

私は愛すべき多くの子供の中に、氣の弱い子供が特に可憐なる、いぢらしい姿を持つて私共の前に來た時に、一方には其弱さを哀はれむ所の深い同情を、而も其弱さに任せずしんぐんぐん自らを試みさせるだけのこちらの強い態度を以つて對して行かなければならぬと云ふことを常に思ふのであります。

此氣の弱い子供を見た時に於て反對の状態を現しますものが所謂氣の粗い子供でありまして、次には其方の問題に就いて考へて見たいと思ひます。

東京女子高等師範學校 保育實習科生徒募集要項

一、募集人員 凡二十四名

一、出願期限 三月十日まで

一、選抜試験

第一次 三月十七日

國語(解釋、作文) 理科(植物)

圖畫(自在畫)

第二次 三月十八日

音樂(唱歌) 身體検査並に口頭試問

詳細は貳錢切手封入の上同校教務

課に照會せられたし。